

江田島市地域公共交通総合連携計画 基本方針の考え方

基本方針

江田島市を支える持続可能な公共交通をつくり、守り、育てます

定住人口の減少に歯止めをかけ、新たな交流人口を創出するため、海上交通（航路）を基軸とし、陸上交通（バス、タクシー等）を含めた体系的見直しを行い、これらが一体として機能する「持続可能な公共交通体系」を、市の適切な関与の下、民間活力を活かしながら再構築します。

目標

○便利で効率的な公共交通体系の構築

～海上交通・陸上交通ともに利便性を出来るだけ損なわず、持続可能なかたちに再構築

○住民の日常生活を支える最低限の移動手段の確保

～これまで移動手段が無かった地域において、地域と協働により新しい移動手段を確保

○誰もが利用しやすい環境の創出

～情報提供の充実や施設整備等により、公共交通の利便性を向上

○観光振興に資する公共交通サービスの実現

～市内外の観光資源を公共交通により有機的に結びつけ、交流人口を拡大

海上交通の目指す方向性

現状

○利用者は減少傾向

- ・人口の減少やマイカー利用へのシフト等により、利用者は減少傾向

○輸送力の供給過剰

- ・利用者が減少する中、ほぼ旧来の運航サービスを維持しており、輸送力の供給過剰による共倒れの危険性あり

○異なる運航主体の混在

- ・民間と公営の異なる運航主体が混在し、個々の事業者が独自の航路運営を実施

○船舶の更新費や維持管理費などが経営を圧迫

- ・運航収入が減少する中、定期的に発生する莫大な費用が事業者の経営を圧迫

仮に有効な対策が講じられなかった場合には・・・

○人口減少や第二音戸大橋架橋の影響による利用者の更なる減少

○事業収益の更なる悪化

○サービスの切下げと更なる利用者離れ

○経営環境の更なる悪化

○最悪の場合、航路廃止も現実には・・・

海上交通の方向性

短期
平成22～24年

- ◎西能美航路におけるフェリー便の三高航路への集約および望ましい航路運営体制の検討
- ◎インターネット等による情報提供の充実
- ◎ICカード導入による乗船券、定期券、回数券の共通化の検討
- 運航資源（船舶や船員等）の共有化や市全体における将来的な望ましい航路運営に向けた継続的な話し合いの実施
- 第二音戸大橋開通の影響調査・対応検討
- 市東部の航路における合理化・効率化の検討・実施

中期
平成25～26年

- 運航資源（船舶や船員等）の共有化や市全体における将来的な望ましい航路運営に向けた継続的な話し合いの実施
- 第二音戸大橋開通に向けた対応実施

長期
平成27年～

- 市全体における望ましい航路運営体制の構築
- 陸上交通と一体となった、持続可能な公共交通の確立

計画事業実施期間（3ヶ年）

計画期間（5ヶ年）

将来計画

陸上交通の目指す方向性

現状

○利用者は減少傾向

- ・近年は小中学生の通学利用等により持ち直しているが、長期的には減少傾向

○バスのみによるサービス提供には限界あり

- ・狭隘道路区間を有する集落や、分散的に発生する需要に対し、バスのみで対応するのは非効率

○幹線、枝線の区分が不明確

- ・幹線、枝線の区分が不明確で、必ずしも効率的な路線体系となっていない

○利用者の活動に合ったダイヤ設定が困難

- ・公共交通の主な利用者となる高齢者等のマイカーを自由に利用できない方の通院・買物ニーズを考慮したダイヤ設定ができていない区間が存在
- ・バスダイヤ等に関する要望を公平な視点で協議する場がない

仮に有効な対策が講じられなかった場合には・・・

○人口減少やマイカーへの転換等による利用者の減少

○事業収益の悪化

○サービスの切下げと更なる利用者離れ

陸上交通の方向性

短期
平成22～24年

- ◎交通空白不便地域のモデル地区への移動手段の導入、実証
- ◎移動ニーズに応じたバス路線の系統整理(幹線、枝線の明確化)とターミナルの機能強化
- ◎インターネット等による情報提供の充実
- ◎棧橋や主要バス停における施設整備
- ◎端末交通手段としての相乗りタクシーの仕組みづくり

中期
平成25～26年

- 交通空白不便地域のモデル事業の知見を他の地区へ順次展開
- 需要の少ない枝線を順次乗合タクシー等の効率的な移動手段に切り替え
- ターミナルを中心とした放射状の路線体系の構築

長期
平成27年～

- ターミナルを中心とした放射状の路線体系の構築
- 海上交通と一体となった、持続可能な公共交通の確立
- 高齢者や通学者が利用しやすい交通体系の構築

計画事業実施期間(3ヶ年)

計画期間(5ヶ年)

将来計画

公共交通体系の将来像

公共交通体系の将来像



観光振興等に関する方向性

現状

- 術科学校の見学を中心とした日帰り観光が大半
 - ・術科学校以外の観光施設への来訪者は非常に少ない
- 市内を周遊する観光客は非常に少ない
 - ・個々の施設への来訪はあるものの、市内の複数の観光施設を周遊する観光客は非常に少ない
- 個々の観光資源は魅力的なものもあるが、PRが十分でない
 - ・海岸沿いの景観や自然体験、農業・漁業体験など、個々の観光資源は魅力的であるが、PRが不足しているため認知度が低い

観光振興に関する取組の方向性

短期
平成22～24年

- ◎市内外観光施設とタイアップした新たな観光ルートの開発(スタンプラリー、坂の上の雲等)
- ◎サイクル&シップライド型エコツーリングの推進(自転車マップと乗船券、観光施設割引券等のパッケージ商品の開発)
- ◎ICカードを活用した地域振興策の検討(ex. 石見銀山WAON(島根県)、めぐりん(香川県))

中期
平成25～26年

- 市内観光施設の連携強化のための継続的な話合いの実施
- 自転車ツーリングの更なる推進のための道路等の基盤整備

長期
平成27年～

- 観光都市としての江田島市のプレゼンスの確立

計画事業実施期間(3ヶ年)

計画期間(5ヶ年)

将来計画